

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

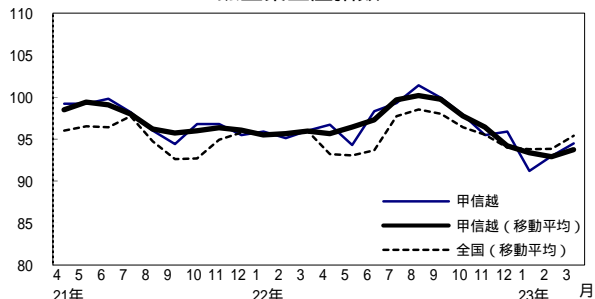
	前回(令和5年3月)	今回(令和5年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	<u>緩やかに持ち直している</u>	持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、前期比3.7%減となった。月別にみると、1月は「電子デバ、電気・情報通信機械」が減少したこと等により前月比4.9%減、2月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同2.0%増、3月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同1.6%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	3.1	5.2	5.2	0.0	0.5
汎・生産・業務用機械	24.8	8.0	3.0	6.2	5.5	4.6
食料品・たばこ	12.0	0.4		5.4	1.6	
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	1.5	2.0	1.2	0.1	0.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	2.1	3.2	3.0	0.9	0.0
鉱工業	100.0	3.8	3.7	4.9	2.0	1.6

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

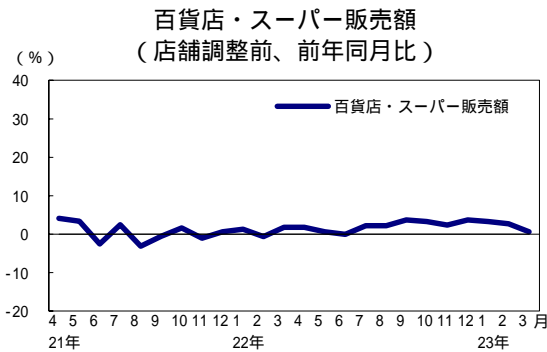
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比 1.2%増となった。月別にみると、1月は前月比 0.1%減、2月は同 1.5%増、3月は同 0.5%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比 2.2%増となった。月別にみると、1月は前年同月比 3.3%増、2月は同 2.7%増、3月は同 0.6%増となった。



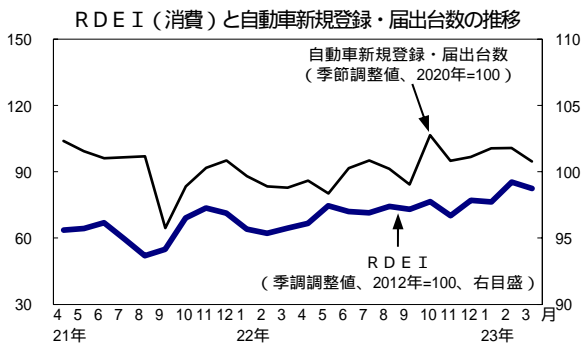
	2023年1-3月	2023年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.2	0.1	1.5	0.5
百貨店・スーパー(*2)	2.2	3.3	2.7	0.6
乗用車(*3)	16.4	16.1	20.3	14.2
(季節調整値)(*3)	0.7	4.0	0.2	6.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

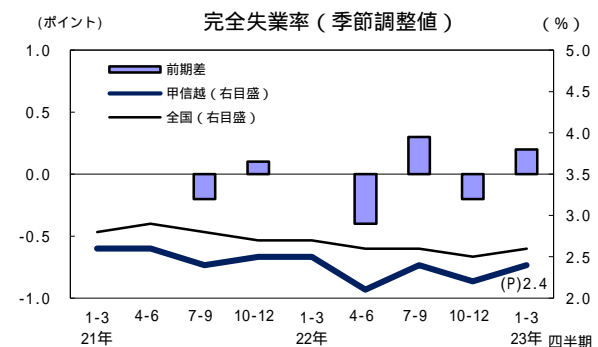
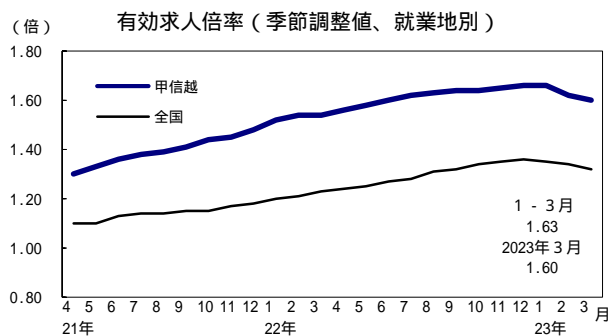
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 1 - 3月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由	
	現状	家計 動向 関連	□	・販売数量は少し増えてきているものの、材料や工賃等の値上げが続き、コスト高により減収である（衣料品専門店）。
○			・暖かくなり、外出する人が増えたようで、おむすびやサンドイッチ等、行楽の道中で飲食するための商材を買い求める客が多くなっている。マスク着用ルールの見直しや、やや良くなっている要因ではないか（コンビニ）。	
▲			・食品や雑貨の値上げが、物によっては100円単位で値上がりしている（スーパー）。	
企業 動向 関連		□	・海外からの観光客が増加してきているが、働き手側で人手不足になっている。原材料価格の高騰により取引先の仕入コストを圧迫している（金融業）。	
		○	・特注品の受注は依然として少ないものの、店頭商材受注は多少の動きがある（窯業・土石製品製造業）。	
		▲	・部材調達に苦慮している。スムーズに入荷する物もあれば、時間の掛かる物もあり、生産開始に影響が出ている（電気機械器具製造業）。	
雇用 関連		□	・業種によっては、現場作業者の不足感が高まっている（民間職業紹介機関）。	
		○	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後の経済活動の活発化に伴う、企業の採用意欲は旺盛であり、ウクライナ情勢や原材料高の影響を考慮しても、景気は緩やかに上向くものとする。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることから、求職者も増加傾向を示しており、人の動きが増えることから同様の判断となる（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			○：年度始めや大型ゴールデンウィークを前に人出は悪くなっているものの、ここ数年では一番ムードが良い（商店街）。 ○：アジア圏からのインバウンド客が好調で連日盛況だが、国内の一般個人客は少ない（観光名所）。	
先行き		家計 動向 関連	□	・物価高や電気代高騰感が続いていて、必需品以外の買い控えが続くと思われる（通信会社）。
	○		・新型コロナウイルス感染症の行動制限等の緩和により、5月からは、客の動きがより一層活発になると見込んでいる（百貨店）。	
	企業 動向 関連	○	・賃上げの影響や夏のボーナス支給による消費拡大を期待している。ただし、生活必需品の値上げによる耐久消費財への支出抑制は懸念される場所である（電気機械器具製造業）。	
		□	・当面は現状が続くものの、値上げの好影響が出てくれば、景気は良い方向に向かうものとする（建設業）。	
		×	・毎月の資金繰りが大変である（出版・印刷・同関連産業）。	
	雇用 関連	□	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行することで、観光関連は動きが出る。一方、製造業では半導体不足や物価高騰等の影響もあるので、全体としては変わらない（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			◎：ようやく世の中がアフターコロナになったという意識に変わってきたようである。無料でワクチン接種できる間は接種に行くが、そろそろコロナ禍も終わりだと思っているように感じる（スナック）。 □：賃上げ効果で可処分所得が上昇すれば、物価上昇を吸収できると思うので期待している（スーパー）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

